



『トクシマ・アンツアイガー』

第2巻

第13号

徳島 1915年12月19日

中国と多数派協商諸国

東アジアの新聞の言論界は激しくざわついている。イギリス、フランス及びロシアは中国に対して、多数派協商諸国に組みするように要請していた。東アジアの諸関係に幾分深い洞察を成しえたものは誰もが、中国が突然ヨーロッパ勢力と手をつなぐ力があることに驚いたであろう。今日なお概ね金を貸している勢力の干渉下にあるその同じ中国が、自分の国もまだろくすっぽ支配できていないその同じ中国が、まさにイギリスの影響によって、組織的に諸国家の会議から遠ざけられていたその同じ中国がと。時代は変わるものだ。もしあれほどしばしば卑屈だった中国の助けをイギリスが頼み込んでいるとすれば、イギリスの案件はやはりうまく行っていなかったに違いない—フランスとロシアはこの問題でもイギリスに追従しているに過ぎない。今日中国の門を物乞いのごとくに叩くことが、イギリ

スにとって何を意味するのかを余すところなく理解するためには、平均的イギリス人が、「ネイティヴ」という言葉を発するときの見下した感情の一切を知らねばならない。

イギリスはところでそのような同盟で何を約束し、また中国は何を提供しかつ望みうるのであろう。最後の問いに我々は先ず返答しようと思う。というのもこれは簡単明快にただ一言、すなわち「何も」と答えうるからだ。イギリスにおいては常に「与えるよりは取ることが至福」であった。それは今でもそうだ。イギリスは中国における新たな君主制の樹立に対して、数週間前に初めて反対表明を断念するとの約束をする。それは安いもので、「弱小国家の自立の擁護者」を失うものではない。やがてイギリスは中国との通商条約改正同意の準備をする。戦争前にはまさにあらゆる手段を講じて、中国における関税引き上げにそっぽを向いていたイギリスが、今やこの譲歩に至ることは本当に異様である。一方でドイツを含む他の国々は、この問題で中国の希望に譲歩することに傾いていた。それはつまるところ、どの道中国は拒むことが出来なかったであろう。あー、イギリスよ、かつていつもこれ見よがしに誇示していたお前の誇りと寛大さはどこに行ったのだろうか？

イギリスは今やこの同盟からいかなる利益を引き出すことが出来るのだろうか？純粋に軍事的な有利はほとんど零であろう。というのはヨーロッパへ部隊を送ることは問題にはなるまい。何故なら中国軍は兵隊を派遣できるほど強力ではなく、再び昔の国家形態へ戻ることを考え、ひょっとすると革命への蜂起を押さえつけるために、その部隊を必要としているこの時代には極々僅かしか派遣できないからである。イギリスの新聞では中国の戦時品供給が語られた。その意味することは、中国が武器庫を多数派協商諸国に使用させることである。というのは概ね靴や革製品のような戦時品供給では、ロシア軍向けに中国はすでに長いこと関わっているからである。

そこで一度中国がそもそもこの関連で我々の敵と大きく関わっているかどうか、調査することはとても興味深いことであろう。要するに中国はお

そらく挙げられた種類の武器を 1 ダース持っているが、その内で本当に武器庫の名に値するものは四つに過ぎないし、またこれらもいくつかの限定つきに過ぎない。中国が一日あたり製造すること出来る小銃の数はごく少ないので、それらは何百万という軍隊の圧倒的な需要には全くもって問題にならない。大砲はこれまでただ試験的に製造されたに過ぎない。ひょっとして中国の武器庫で製造された弾薬が、我々ヨーロッパ側の要求に十分であるのかどうかは不確かなままとしておこう。何故なら弾薬もまた量的には二義的な意味しかもたないであろうから。

多分中国における個人所有の工場を、弾薬製造のために稼働させることを考えたのであろうが、ここにも何らの大きな成果を約束できるものではない。全鉱業とそれと関わるものはまだすこぶる幼稚である。我々と同様にイギリス人はそうした全てをよく知っている。ムク犬の正体は、つまりどこか別に探し求めねばならない。イギリスは多分我々を商業政策的に、この戦争によって全地球上で長きに亘って冷や飯を食わせるという夢が、ますます水泡に帰すことを知るであろう。どんなことをしても我々を非難し、我々の諸外交関係を断絶させ、それを引き裂こうとしている。後者はイギリス殿には期待するほどうまくは行かないように思われる。それにも拘らずイギリスはその手段の選択において、まさに選択的ではなかった。それどころか我々が想定できることは、ある日我々に対して行うのに良いと思っていた方法が、自分たち自身に向けられるかもしれない。イギリス人がアフリカにおけるドイツ人市民捕虜を、黒人による虐待に委ねた仕打ちだけでも思い起こしたい。それによって黒人の間に白人の威信が、またそれによってイギリス人の威信が強められるのかどうか？

ともかくまたテーマへ戻る。イギリスは少なくとも中国において、ドイツ人商人の声望を常におとしめようと奮闘してきたにも関わらず、何一つ成しえず、また中国のドイツ人が講和条約締結後に、実行しうる新たな事業と経営を導入するためあらゆる手段をつくすのをきっと恐れたので、イギリスはここで我々に最後の一撃を加えようとしている。イギリスは見た

ところもはや中国に、目下中国で生活しているドイツ人を強制収容所に収容すること以外は何一つ要求しなかった。例えば戦争中、いくらか不利な状況に陥ったイギリス人の影響を、新たに強化する等々の付随的な目的が追い求められるかもしれない。主たる意図は、無防備のドイツ人市民、女性及び子どもたちに対して、卑劣な戦争を誘発することだった。我々がこの戦争で見たこと全てから、まさにただイギリスのみがやりかねない行為だ。

日本の抗議同様に中国の姿勢においても、先ずはイギリスの骨折りは挫折すると思われる。中国はみたところ、何故イギリスが中国を好んで、数年来最良の関係を維持してきた国民に対して、敵対的な振る舞いをするのかを理解できていないようだ。

日本の宗教（最終回）

仏教寺院デヴァは一般に外見からして、その豊かな建築学的な装飾によって特色づけられる。その木工品は精巧な彫刻で覆われ、金箔を施され漆を塗られ、美しい金属留め金による装飾法は広く伝播している。多くの寺院の入り口の門には、左右に赤や緑に塗られた憤怒の形相で睨みつける木像が立っている。それは仁王様、つまり二人のデヴァ王インドラとブラーマで、悪魔を追い払うのである。その像は多くの紙の玉で覆われている。願い事がある者はその願いを紙片に書き、口に入れて噛み、それを王の一人に吐きかける。紙の玉がくっ付いたままであれば、願いは成就する。仏教寺院のさらに本質的な特色は、寺院の内部にある神々の絵や立像で、その多くはほとんど完全な接木である。それから鐘楼と五重塔。しばしば境内には更に卒塔婆ないしは塔婆（サンスクリットのストゥパ）が見られる。これは石碑で、元来はインドの聖人の遺骨の上に建てられたものだ。それは立方体、球、ピラミッド、半月及びボールから成り、この順序で下から

上へ順々に重ねられるが、それらは大地、水、火、空気そしてエーテルを意味する。多くの塔婆の脇にあっては下の部分、つまり大地は長い正方形体で現されている。仏教寺院では神道寺院と同様に、神に食べ物と飲み物が捧げられる。もちろん僧侶たちは神が残すもので元気づけることを拒むことはしない。

宗教は一般に日本人の道徳的生活態度に何の影響も及ぼしていない。というのも宗教は神性への関係を規則づけているに過ぎないからだ。人間関係を相互に論じる道徳哲学は、宗教から完全に遊離している。道徳的生活態度にとって規範となるのは、今日においても儒教、すなわち紀元前約6世紀に生きた中国の哲学者孔子の教えである。彼がとりわけ問題としているのは、人はいかにしてその同胞及び国家に対峙しなければならないかということである。人の本性は彼の見解によれば善で、魂と肉体及びその欲求の結合のみが人を誘惑と罪へ動かす。親への愛、忠誠、心の純潔と誠実を彼は最大の徳とみなしている。儒教倫理は多くの日本人にとって唯一の理想で、教養のある階層の一部は全く無宗教的である。というのも宗教はどれもどこか時代遅れと彼等は思っているからである。

シンフォニーコンサート

長い几帳面な仕事の後、我々の楽団は先週日曜にハイドンの交響曲第6番を我々にもたらしてくれたが、それはここで演奏された最初のシンフォニーだった。我々は感謝の心をもって、かくも長く閉ざされていた神聖なるものの中へ再び歩み入ることが出来た。どれほど多くの困難な仕事がそのような上演には、一人一人の援助者に隠されているのかははっきりとは知らないのだが、冬季計画に示されているよりもっと頻繁に、我々の心を高揚させてくれるように我々はお願いしたい。二、三の批判的な言葉を我々の音楽団体は悪意に取ることはないだろう。演奏にはここかしこに

残念に思われる小さな点があった。ヴァイオリン奏者たちには出だしで失敗があった。金管楽器では吹きそこない、木管は時折痛ましい出だしだったが、みんなそういうものを何がしか持っているものだ。リハーサルと比べれば彼等は全く我々を驚かせた。澁刺とした活気が随所に見られて素晴らしい。もう一点話していいだろうか？楽器合わせが良くない中をまだ何か苦しんでいる第1楽章で、誰かが我慢できなくなって、一体こんなシンフォニーがあとどれほど続くのかと尋ねた。ところが最終楽章の後で、「こういう楽章がもっと続かないのは残念だ！」と心の底から言った。楽団の諸君、聞いているかい？もっとなん楽章もだと！ハンゼンはそれから悲歌を演奏したが、それは他ならぬ作曲家の心情の告白で、それは彼が生涯に亘って関心を常日頃語っていた楽器、まさにそのために書かれたものだった。彼は多分心に染み入る音色を見つける術を心得ていたのだ。そしてハンゼンは我々が深く共感した響き、恋人の変容に芸術家の憂愁たる悲しみと浄化を我々にヴァイオリンで演奏してくれた。それから最後にフィガロ序曲、これは我々がすでに好きなものに挙げて知られていて、聴いてみたいと思っている作品。本当に素敵な夕べだった！

東部戦線について

コッホ火工副下士殿は親切にも、東部の前線の砲兵連隊にいる弟さんからの野戦郵便を使用させて下さった。我々はその手紙から次の興味深い詳細を取り上げる。

1914年12月末、僕は新編成、すなわち新たに編成された第56予備砲兵連隊に配置換えされてオーアドルフに來た。ここで僕たちは新編成の師団に編入された。1月に僕たちはさらに東部戦線へ移動した。しかもロシア人によって占領されている東プロイセンへ。ここで僕たちは全部隊の前進までなお凡そ4日間、平穩のうちに宿営していた。やがて2月8日に

戦闘に加わり、僅かに抵抗するロシア人を完膚なきまで東プロイセンから追い出し(マズーレンの冬戦争)、彼等の勇敢な部隊の大部分を捕えた。シュタルパーレン等(名前なんてそれほど興味は引かないでしょう。僕ももはやはっきりは覚えていません)を經由して僕たちはドイツの街道を(つまりいい道を)国境へと進軍し、2月9日に国境を越えた。

いつも国境に沿って南へ進軍しながら、ヴェシュチネツを經由して僕たちはヴェシュニへ来た。ここで僕たちは途方もない幸運に見舞われた。多分想像できると思うけれど、そんな素早い進軍の際に、食料には当然文句を付けたいところがいくらもある。加えてしかも冬の氷のような寒さだ。つまり糧食がほとんど尽きかけた状態でやって来たが(かろうじて傷みかけのベーコンとほぼ同じようなパンしかなかった)、ある朝我々の連隊副官が到着して砲兵中隊長に次の連絡をもたらす：砲兵中隊はヴィンヤイニュス湖の氷を涉って急ぐように。素早い行動によって、我々はロシアの輜重隊を残らず全部捕まえることが出来よう。言うが早いかもしれない。

湖を覆う氷はどよめき呻いたが、有難いことに無事だった。僕たちは湖の先の険しい丘に砲車を押し上げ、そして上から下ろさねばならなかった。今や戦闘の火蓋が切られ、様々に砲弾が打ち込まれ、まもなく僕たちは働きの果実、つまりパン・バター・ベーコン・砂糖・紅茶・葉巻・紙巻タバコ等々の素敵なものが備わったロシアの輜重車の静かな集積所を視察して、それらの品物を買うことが出来た。けれども至極公平で当然だった。なお最も素晴らしかった事は、ロシア人たちが、確かに彼らにとっては残念至極であつたろうが、この突然の思いがけない訪問のために、ロシア革製の最上等の将校用及び兵卒用長靴を、そのままに放って置かねばならなかったことで、それらは水が沁みやすい長靴を履いている我々の兵士たちにはとても役に立った。僕自身は他に文句の付ようがない旅行用膝掛けを、羽根布団、枕及びベッド枠(折りたたみ式)ともども手に入れることが出来た。それからますます遠く南へとズヴァルキまで進軍した。

野蛮人民族

我々のことを敵は野蛮人と呼んでいる。我々はそれを苦笑し笑い飛ばしている。というのも彼等は戦争以来初めてそう呼び、この理由からもその発言の本質について、あれこれ考える面倒なことはしていない。実際その呼び名は特に我々の西側の隣人において、例えば 1914 年に初めて起こったのではなく、我々の生き方と本質の実に様々な領域を非文明的とする評価は、赤い糸のように彼等の文学を貫いている。彼らが文句をつけたいくつかのことは、我々の最も優れた者たちによっても残念なこととされたか、或いは場合によっては変えられたものである。我々民族の偉大な者たちがともかく我々の前に鏡を立てることを避けているので、我々の方も彼等のせいで形成された判断に従って生きること慣れようではないか。その時には先ず我々は当然、別の収容所からの否定的な見解を軽蔑しないで受け止めることが出来よう。ともかくいつもそのように振る舞えば、我々是我々の行動さえも良いものとみなすことが出来るのではないか。一度だけ配慮という領域から二、三の例を挙げる。一大きなホールでミサがある。垂れ幕を通して、薄くて透明でもあるのだが、A がボタンを縫いつけ、B がうろうろ歩くか、或いは欠伸をしながら腕を伸ばしたり、またそうした色んなことを沢山している様子が見える。慎重深くしていられるだろうか？百人の者が仕切りもなしに横になっている部屋で、絶対的に誠実でいることは、最も要請される配慮の一つだ。それが一体どうなるだろう？一大掛かりにして素晴らしいコンサートでは、どんな席も、ベッドを置く場所では、一等席のように確保はできない（ふさがっている、とは残念ながら言うことは出来ない）。それどころか幾分離れた隅のブリッジ勝負をしながらシンフォニーの勉強をしていた。（あるいはひょっとして、シンフォニーを聴きながらブリッジを？）。まさにミサや芸術の練習のような大きな共同の催しものが合わない人たちは、いくらかもっと配慮してくれることは出来ないのだろうか？三つの例は単に倫理的な注文を応用したに過ぎない。誰

もその要求が当然であることは疑わないであろう。誰もがみんなそれを手本として生きようと思っているのだから。もしあちこちで勿論怠惰が生じることがあっても、我々はなんと言っても理想の人物像ではなくて、弱い人間に過ぎないのだ。がしかし決して、また少しも言うことは許されないのは、我々が野蛮人であるということだ。そうだとすれば我々はただ笑うだけで、またそんなことは少しもも考えたりしないだろう。

チェス・コーナー

(駒の略語 K=キング、D=クイーン、L=ビショップ、
S=ナイト、T=ルーク、B=ポーン)

第 69 問の解答

1. Dg1 - b6 任意の手
2. D, L, S で詰み

第 70 問の解答

1. Dd4 - f4 Ka5 - a4
2. Df4 - d2 Ka4 x b3(- a5) または
L を任意に
3. Dd2 - d1 (Tb3 x a3) か
Dd2 x b4 で詰み

第 70 問その他の解答

- | | |
|---------------------|--------------------------|
| 1. Ka5 - a6 | 1. La3 - b2 (c1) |
| 2. Df4 - b8 任意の手 | 2. Df4 - f8 任意の手 |
| 3. Db8 - a8 詰み | 3. Df8 - a4 (x b4) 詰み |

正解を送ってきたのはヨーゼフ・ヴェーバーだった。

第 71 問

白：Kf2, Db7, Tc1, f5, Ld2, f1, Sd8, e8, Bc2, e3, g4

黒：Kd5, Se5, e2, Bc5, c6, c7, f3, f6, g5

2 手詰め

第 72 問

白：Ke6, Ta2, g2, La1, Bd5, e2

黒：Ke3, Bd6, e5, g3, g4

3 手詰め

蒸気船「フロリダ」の沈没（2）

我々のハッチが降ろされ、外国人たちが甲板に上がって来る。我々の質問には何も答えることもなく、水兵たちは黙ったまま、明らかに事前に指示された場所に腰掛ける（立つ）。3 人の高級将校は司令官のいるブリッジへと上がってゆく。彼等の帽子の帽章が示しているのは黒、白、赤で、ドイツ人ではないか !!! そして一人の婦人が我々みんなを呪縛している雰囲気、大きな声で「ね、待てば海路の日和よ」と叫ぶ。最初の将校が司令官のブリッジに入るや、彼は短く「旗を降ろせ！」と命令する。我々は従わねばならない。青白赤の旗が下がり、ドイツ人将校はそれを巻いて彼らを運んできたボートの上に投げる。我々は歯噛みしながら押し黙り、やがてそのドイツ人は我々の船の船長の方を向き、落ち着いて「君らの船は戦利品だ！」と告げる。フランス人高級船員たちは驚いて椅子から飛び上がろうとするが、顔は蒼白になり、沈黙してしまう。ドイツ人たちは全ての書類、全ての鍵を提出させ、そして調査が始まる。

つづく

愛するアンナ！

多分僕が言うことを信じてくれるだろうが、君は僕の最愛の人で、僕はその君に激しい共感を抱いている。だから僕は正直な考えを持つ者で、ドン・ファンではない。もし誰かが来て、僕と同じように容姿が立派であっても、その心には狡さが潜んでいると、僕はそのときその狡さを見抜き、心の中で、アンナは違うと悟るのだ。もし君が心のどこかで、フランスの女音楽教師と知り合いだった僕をドン・ファンだと思っているのなら、このことを僕は君に書かねばならない。愛するアンナ！ 何故なら兵士の愛は忠実だ。それに僕たちの間では、音楽教師に関してもどんな秘密もあってはいけないのだ。このことは僕たちがそのためにいがみ合う価値はない問題だ。

何故なら僕たちがエーヌ川沿いのフランス軍陣地を占領したことで、翌朝一人の女が現れた。この女は絹の安い服を着た、堂々とした姿かたちだが、それは見た目に過ぎず、僕はその女の心の中にはなにも発見できなかった。ところで君に伝えなければいけないが、この女は激しい驚きに襲われていた。というのもフランス語をしゃべる人間がいなかったからだ。それで中尉殿が女に、フランス軍の賄い女なのか尋ねるために赴いた。しかし女は「ノン」と応え、音楽教師だと言った。

愛するアンナ！ この女は、フランス人がいないのでため息をつくばかりだった。そうしながら女は楽になるように毛皮の襟をはずした。しかしこのことで、フランス人娼婦がドイツ人の塹壕を占領したことにはならない。それゆえ中尉殿は言った：「マドモワゼル、我々がここにいるは戦争のせいで、音楽の授業を受けるためじゃありません。さようなら、マドモワゼル！」しかしこの女がこの言葉を理解出来ずに、静かに微笑んで帽子を釘に掛けると、中尉殿は「クネチュケ、これでは駄目だ、我々のところ

でこの女に冬を越してもらうわけにはいかない。この女を街道へ連れ出すのだ！」と言った。愛するアンナ！もしかすると中尉殿は僕が学のある奴で、フランス人女音楽教師と付き合い方を心得ていると知っていたのかもしれない。それで僕はその女を街道へ連れだして、フランス人のところへ送るために出かける。この女が激しく罵ったのは、僕は女が嫌がったにも関わらず腕を引っ張ったからだ。しかし僕たちが二、三分歩くと女は素直になり、告白すると、その女は僕の手を撫で、拙いドイツ語で、僕は優しい若者だ、知り合いになればパパは喜ぶだろう、パパは公爵で一時間ほど先の下流に住んでいる、と言った。

愛するアンナ！ 君は僕の言うことを信じてくれるだろう。僕がフランス人女音楽教師と公爵である女のパパの所へ、行ったりするようなことはしないことを。しかしその人は僕の嫌悪感を見抜くと気落ちして、街道で一人死ぬようなことはさせずに、パパのところへ連れて行って、とささやいた。それで僕は可哀そうになって更にその女と歩いてゆくと、女は今度は激しく僕の手を撫でて、左の頬を一度つねったりした。こうして僕たちはとある古びた物置にやって来た。そこで女は言った。ここが私たちのお城よ！それで僕は女とその城の中へ入ると、汚らしい奴に出迎えられた。そいつはひどいやぶ睨みで、強いアブサンの臭いがした。でもその人はその男を眺めながら言った。パパ、この兵士は私の命を救ってくれたの。それから女は僕を暗い部屋の中へ連れてゆき、公爵はシャンパンを二、三瓶持ってきた。するとその人はシャンパンの栓を抜いて注ぎ、右の頬をつねった。愛するアンナ！僕は君にありのままの真実を書きたいと思っている。何故ならシャンパンは非常に強い効き目があったので、僕は女の耳をつまんでしまった。でもこうしていちゃついた後で、僕は激しい危機に陥った。それで更に羽目をはずすことなくシャンパンを三瓶空けた。君、フランス人の物置でシャンパンを三瓶も空にしたことは、これが僕の人生で最後だったかもしれない。何故なら分かっているにちがいないけど、女音楽教師はシャンパンを注いで頬をつねって、正直な男を罠にしかける卑劣な奴

だった。こうして僕はまどろみに落ち込んでしまった。女は多分これで今や僕を手に入れたと考えただろう。というのもしばらくして眼が覚めると、僕は縛られた状態で地下室に寝かされ、数歩離れた椅子に一人のイギリス人将校が腰掛けて、電話でフランス人砲兵ちび達と川を挟んで話をしていた。

愛するアンナ！ イギリス人胡椒野郎がそんな風に平然として、フランス人砲兵ちびと電話で話していて、僕はその数歩離れたところで横になっている、ということは強烈なことだった。僕が激しい憤怒に包まれたことに君も納得を感じるだろう。そこで僕は慎重に電話線を引きちぎったので、そのイギリス野郎は多分電話線がやられたと思い違いをした。この原因が一人のドイツ人上等兵ではなくて、電話線はより糸のようにちぎれたのだと。その後僕は激しく上に飛び跳ねた。僕はいまやイギリス人のっぽの禿頭に上から一発食らわした。そいつを後で見た者は多分頭を振り、ここは淫売屋だと密かに考えるだろう。しかし僕はどこなのか知っているし、さらにもっと誰かがいるので、スパイたちをペテンにかけてつまみ出すためにある軍略を考え出した。それで僕はそのイギリス人能無しの制服を着て帽子を被った。

愛するアンナ！ 僕はその男より太っているので、イギリス人の猿野郎ジャケットの縫い目が開いて、僕の格好はもしかすると皮のまま茹でてはじけたじゃがいものようだったかもしれない。それから僕はドアを開けて、薄暗い入り口を通った。脇の小部屋には六人の奴らとフランス人女音楽教師がいた。こいつらはみんなシャンパンをしこたま飲んでいて、僕に長々と話を浴びせかけてきたが、僕は、「ウェル（さて）」と応えただけだ。

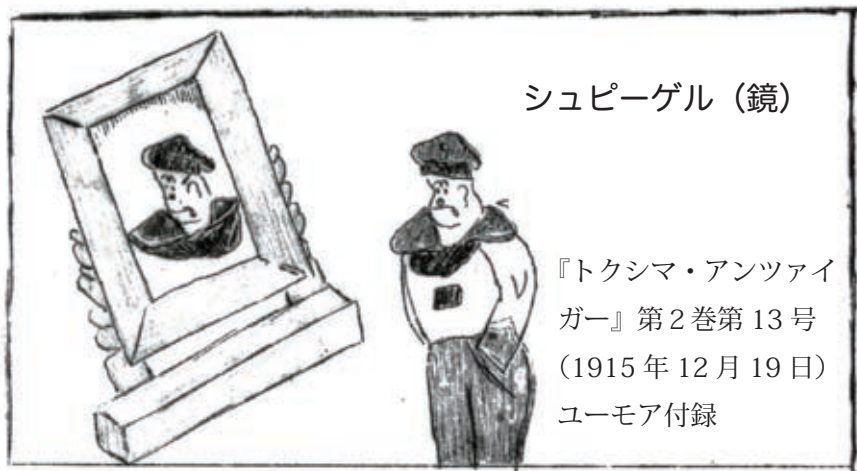
愛するアンナ！ というのもこれは英語で、いつでも通じる。そして僕はその後僕たちの陣地に大急ぎで戻り、中尉殿にその狡猾な女がシャンパンを僕に注ぎ、頬をつねったがその心は偽りだ、と報告した。それに電話も。

君！ 多分僕らの重砲がその物置へ数発砲弾をぶちこんだので、フランス人女音楽教師は後悔して、クネチュケ氏をシャンパンや頬を抓ることで毘

に誘ったことは良くなかった、と思ったことだろう。

愛するアンナ！ 僕たちは心も魂も一つのままであることを期待して、ともかく終わりにしたい。何故なら僕はいかがわしい女に耳を引っ張られる頓馬だからだ。君に口付けを送る心から愛する

ハインリヒ・クネチュケより



ニキータ： マムーチュカ、ボタンを縫い付けてくれないか、
数えたいんだ、戦争が更に…、それとも平和が…。





演劇と音楽が上演される。
他の素晴らしいこと同様に
一人一人が苦勞するのは、
全てがうまくいって成功すること。
夕方小屋の中では
リハーサルをしなければならない。
しかしそこがじめじめして寒いことは
まだよく考えていなかった。
それから更になお衣装を作り
役割と楽譜とその他
100 もの仕事がある。
女性の役割にも
実に様々のことがまだ必要だ。
かつらはここで、髭はあそこだ
そうする用意は我々にはある。

この収容所で有能な者として
よく知られているのは
我らが宮廷理髪師という芸術家で
かれはこうしたことを何でも拵える。
みんなを楽しませるために
大勢の人員が活動する、
こうしたことも成功したことは
更に証明済みだ。
しかし大きな価値があるだろう。
なにしろ多くの者で
苦勞がすべて事実報われ、
とても快活ラ、ラなので。



寝に行かなかったのはもっけの
幸い。私は少なくとも新しい
掛け布団を手に入れた。
これだって何がしかの
価値はある
どうだい？

たいていの場合はしばしば
歓迎が欠けていて
しばしば困難にぶつかって、
考えも別々だった。
我々がすでに感じたように
もし誰もが
とても簡単なことだけれど
いくらか歓迎を示すならば、
それでとても満足で
いく晩も我々は陽気で楽しむことだろう。
仕事を担って悔やむことのない者同様に。

